

請 願 文 書 表

(環境政策局)

受 理 番 号	1 1 3 6	受 理 年 月 日	令 和 4 年 9 月 28 日
件 名	北陸新幹線延伸による伏見区の地下水への影響の独自調査の実施等		
要 旨	<p>北陸新幹線京都延伸計画が伏見の地下水に大きな影響を与えるのではないかと、心配の声が酒造関係者をはじめ多くの所で出ている。伏見区では過去に、奈良電鉄の地下鉄計画に対して、地元が京都大学など研究者の協力も得ながら、そのルート（位置と深さ）についての科学的調査（地下水への影響）を実施し、地下水への影響が出るとの結論を得て、計画が中止となったことはよく知られている。</p> <p>北陸新幹線京都延伸計画は、京北など京都市北部から南下、京都駅付近で大深度の深さで地下駅を建設し、その後、同様の深さで伏見区を貫通し、松井山手に抜けるというものである。</p> <p>この間、京都市内でもトンネル建設によって地下水への大きな影響が出る事例が、東山区での新幹線東山トンネルや稲荷山トンネル、地下鉄東西線など数々起こっている。東山トンネルでは今熊野地域で井戸水がかれ、家屋の倒壊が起こった。稲荷山トンネルでは工事中に滝の水がかれ、田の水が使えなくなる事態が発生し、地下鉄東西線工事では、113か所で井戸の水がかれる、水位が低下するなどの事例が多発し京都市が損害賠償（322件）を行っている。</p> <p>関係者の間では、トンネルは水を嫌うと言われている。工事中の大量の湧水が工事を阻み、水を抜かなくては工事ができないため水抜きトンネルなどが造られるが、地下水の存在そのものがトンネルを弱めるため、水がかれるまで地下水を抜くなどの措置が求められる。</p> <p>地下水は地上の川ともつながっているため、当然河川にも影響が出る。リニア新幹線工事による大井川の水量減少が大問題になっているが、同様のことが京都の鴨川、その他で起こる可能性が十分ある。</p> <p>京都市の地下水は、長期にわたる地殻変動で陥没して生まれた盆地状の地下構造に、周辺の山々から運ばれた砂や泥、岩石が堆積し、琵琶湖に匹敵する豊富な地下水がめを形成している。それは、京都全体の環境の土台となり、もちろんのこと、伏見の暮らしや産業の土台を成している。そこでの巨大地下トンネルの通過は、京都を南北に貫く悪影響、伏見区の暮らしや産業への悪影響を与えかねない。このことに対して、地元から心配の声が出るのは当然である。</p> <p>地下の状況は一律ではない。伏見の地下水への具体的被害がどう発生するか、徹底した調査が必要である。しかし、鉄道運輸機構のこの問題に対する対応は極めて頼りないと言えないものである。鉄道運輸機構は方法書の中で、地下水への影響については知見を持っていないと発言し、今後、専門家の助言を得て環境アセスメントを進めるというだけである。地下の状況は、時間も掛けた徹底した調査を行うことなしに、誰か専門家に聞けば詳しい状況が分かるというようなものではない。その点で、先の頼りない発言に終始している鉄道運輸機構だけに任せていくことはできない。</p> <p>そもそも、日本の環境アセスメント制度は、大型工事などによる地域や環境への影響について、甚大な影響が出るのが明らかな場合でも、計画の中止という選択肢を持っていない。影響をできるだけ回避、低減するというだけのものである。こうした中で、伏見区に大いに悪影響を及ぼす可能性がある今回の北陸新幹線京都延伸計画がなし崩し的に推進され、取返しの付かない事態の発生を防ぐためには、京都の暮らしや環境を守る責務を持つ京都市が、現在明らかにされている幅広いルートに関して、現段階で予想される京都の水に関する問題を独自に整理し、可能な独自調査や検討を実施し、まずは京都市としての一定の考えを持てるようにすることが大切ではないか。</p> <p>については、北陸新幹線京都延伸による伏見区の地下水への影響について、鉄道運輸機構任せではなく、京都市独自の調査と検討を行うことを願う。</p> <p>なお、本請願について署名256筆を添えて提出する。</p>		
請 願 者			
紹 介 議 員	やまね智史、赤坂 仁、西野さち子		
付 託 委 員 会	文化環境委員会		